

はじめに

このテキストは、一般入試にせよ、推薦・AO入試にせよ、大学・短大に合格するために必要な「小論文」を書く力を修得することを目標に作成されています。

小論文問題で求められる記述力は、体験に基づいて感想や想いを個性的に書く作文とは違い、客観的な事実に基づいて自分の意見を論理的に、かつ説得力のある内容で書くことです。そのためには、基本を忠実に守りながら、与えられたテーマを自分なりに考え、適切な用語を使い、筋道を立てたわかりやすい文章で実際に書く練習を繰り返し積むことが大切です。

このテキストでは、近年の小論文問題に則して、実際にどのように書けばよいのかを基本から入試実践レベルまで順を追って説明してあります。さらに、さまざまな設問の形式ごとに、その説明に従って自分自身で考え、かつ実際に原稿用紙に書くという作業を繰り返し行いますので、記述力を向上させることを可能にしています。

また、この学習を通して、さまざまな社会問題について自分の意見・考えをもつことが自然と身につきますので、将来にわたって大いに役に立つものと確信しています。

・テキストの構成

1. 全体は「導入編」「基礎編」「入試実践編」の3部からなります。さらに、「導入編」は5課、「基礎編」「入試実践編」はそれぞれ10課に分かれ、計25課です。

導入編

……小論文の基本的な書き方を確認します。

基礎編

……いろいろなパターンの小論文問題への対応のしかたを具体的に学びます。

入試実践編

……過去の小論文問題を取り上げ、実際にどう書けば合格答案になるのかを知り、実践的な力を養います。

2. 各課では「学習のねらい」が明示されていますので、それを目標に学習を進めます。

3. 各課の最後には「課題」が設けられています。指示に従って、自分自身の力で、実際に原稿用紙に書くことで記述力を向上させることがねらいです。

もくじ

第1部 導入編

1 小論文の書き方の基礎

◆小論文で求められる能力を把握する ◆小論文の基礎的な書き方を把握する

2 わかりやすく読みやすい文章を書く

◆小論文の頻出テーマを確認する ◆わかりやすく、読みやすい文章を書くポイントを把握する

◆記号や数字の使い方・書き方を理解する

3 段落構成を考えて答案をつくる

◆文章を作成する手順を学ぶ ◆制限字数に合わせた段落構成のしかたを把握する

◆頭括型・尾括型・双括型について理解する

4 出題の意図をとらえて答案をつくる

◆出題意図のとらえ方を学ぶ ◆考え方の基礎を把握する ◆論理的な考え方を学ぶ

5 答案構成メモをつくる

◆ブレインストーミングを用いて答案構成メモをつくる ◆原稿用紙の使い方を確認する

第2部 基礎編

6 賛成・反対を問う問題を書く

◆賛否を問う問題の書き方のパターンを把握する ◆「意見↓反論↓再反論」のパターンを身につける

7 「〜こと」型の問題を書く

◆「一行問題」の書き方のパターンを把握する ◆題材を選択・限定して答案を書く

8 「〜と…」型の問題を書く

◆「〜と…」型の書き方のパターンを把握する ◆二つのキーワードがどう関連するかを考える

9 コメント型問題を書く

◆コメント型問題を書くパターンを把握する ◆コメントから出題者の問題意識を読み取る

◆出題者の問題意識を踏まえた答案を作成する

第3部 入試実践編

- 10 キーワードを使って書く
◆キーワードを使った問題の書き方を把握する ◆キーワード相互の関連を把握する
- 11 複数の課題文を読んで書く
◆複数の課題文を読んで書くパターンを学習する ◆二つの課題文の関係を読み取る
◆二つの課題文の関係から、解答の方向性を導き出す
- 12 課題文を読んで要約・論述する問題を書く
◆課題文の主張を読み解く方法を学習する ◆要約の方法を学習する
- 13 要約と自由論述の問題を書く
◆課題文を要約し、自由に論述するパターンを学習する ◆要約を踏まえた論述のしかたを学習する
- 14 統計資料を読んで書く
◆「表」や「グラフ」の数値の読み方を把握する ◆「表」や「グラフ」の解釈のしかたを把握する
- 15 抽象的な課題を書く
◆抽象的な課題の書き方を把握する ◆抽象的なことを具体的に書くテクニックを身につける
- 16 グローバリゼーションと異文化理解
- 17 まちづくりと地域振興
- 18 科学研究と効率性
- 19 男女共同参画社会
- 20 弱くて、かっこ悪い自分へ
- 21 翻訳と辞書とインターネット
- 22 学校にエアコンは必要か
- 23 労働力人口の推移
- 24 高校生に覚醒剤を使用する自由はあるか
- 25 私のアイデンティティとは何か

① 小論文の書き方の基礎

▼この課のねらい▲

- 小論文で求められている能力を把握する
- 小論文の基礎的な書き方を把握する

1 小論文では、何が求められているのか

はじめに、小論文試験とはどんな科目なのかを説明しておきましょう。小論文で試されているのは、制限時間内に、(1)問題文を読み取り、(2)問題に対して論理的に考えて、自分の意見を確立し、(3)それを文章で伝える、という能力です。

(1) 問題文を読み取る能力

まず、問題文を読み取る段階では、その問題文が、何を投げかけているのかを理解する能力が試されます。また、そのうえで、問われている内容に合致した適切な題材を選択する能力が必要になります。小論文のテーマは、多くは、現代の社会的な問題ですから、適切な題材を選択するためには、現代社会のさまざまなできごとに関心をもつingことが必要になります。

(2) 問題に対して論理的に考え、自分の意見を確立する能力

これは、一言でいえば「考える力」です。ここで大切なのは、「どんな」意見を考えたかではなくて、「どのようにして」考えたかです。先にも述べたように、小論文のテーマは社会的な問題ですから、「絶対にこれが正しい」という結論はありません。したがって、結論よりも、そこに至るまでのプロセスのほうが重視されるのです。考え方の筋道が立っているか、意見と理由

が対応しているかが重要なポイントとなります。

(3) 自分の意見を文章で伝える能力

三つめに、「書く力」です。小論文では、自分の意見を、答案用紙に書かなくてはなりません。評価されるのは、答案用紙に書かれた答案です。ですから、自分の意見を、なぜそのように考えるのかを含めて、読み手に伝える能力が求められます。

そのためには、自分がなぜそう考えるのかを、わかりやすく伝えなければなりません。読み手が「確かにそうだ」と納得できるのに十分な説明を制限字数のなかでまとめる能力が求められます。「うまく言えないんだけど」とか「なんとなく」という言い訳が通用しないのが小論文です。それだけ、自分の意見を明確に書くことが求められます。

2 小論文の書き方の基礎

では、以上のことを踏まえて、小論文の書き方の基礎について、いくつかのポイントを挙げながら、説明しておきましょう。

ポイント1

小論文とは「意見文」である

はじめに、小論文は「意見文」であることを、心に刻み込んでください。私たちが読む文章には、説明文、記録文、通信文、感想文、さらには小説、

詩、随筆などさまざまなものがあります。その中で、小論文は、自分の意見を相手に伝えるための「意見文」と呼ばれるジャンルに属しています。このことを意識していないために、求められているものとは異なった文章を書いてしまう例も、ずいぶん多くみられます。

ポイント2

基本パターンは「意見+理由」

小論文は意見文ですから、意見を述べるときの基本的なパターンを考えてみましょう。

すぐにわかるとは思いますが、自分の意見を述べるためには、意見のほかに必ず理由が必要です。これは、会話でも文章でも同じことです。そうでないと、なぜそのように考えるのかが読み手に伝わらないからです。

したがって、小論文の基本構造は「意見+理由」となります。この二つがきちんとしていれば、最低限、小論文としての形となるわけです。

たとえば、サマータイムの導入の是非について述べた、次の二つの文章を比べてみてください。

私は、サマータイムの導入に賛成である。

私は、サマータイムの導入に賛成である。なぜなら、サマータイムを導入したほうが、時間を有効に使えるからだ。

初めのものは、意見だけの文、二つめは、理由を添えた文です。当然のことですが、理由を添えた文のほうが説得力があります。しかし、これでもまだ十分ではありません。「サマータイムを導入したほうが、時間を有効に使

える」というけれど、読み手には、なぜそのようにいえるのかが伝わらないからです。

ポイント3

「意見+理由+説明」の三点セットで書く

そこで、「サマータイムを導入したほうが、時間を有効に使える」ということの、理由を書かなくてはなりません。この部分を、「説明」といいます。ここでは、意見の根拠が「まちがっていませんよ」ということを、「論証」するわけです。たとえば、次のようにしてみます。

私は、サマータイムの導入に賛成である。なぜなら、サマータイムを導入したほうが、時間を有効に使えるからだ。たとえば、サマータイムによって時間を一時間先に進めれば、日没は現在よりも一時間遅くなる。すると、日の高いうちに仕事が終わって、終業から日没までの時間を仕事以外の家族とのふれあいや地域の活動にあてることができる。

こうすれば、初めて読んだ人にも、なぜ、サマータイムを導入したほうが時間を有効に使えるのかがわかりますね。

サマータイムは、夏の一定期間に、標準時を早める制度です。たとえば、一時間早まれば、通常の一二時（太陽が真南に来る時間）は、サマータイムの一三時になります。終業時刻の午後五時は、通常の午後四時の明るさです。日没までも時間があります。

なるほど、いわれてみればそのとおりだとわかります。でも、読み手は、これだけで納得できるでしょうか。「たしかに理屈ではそうなるけれど、本当にそんなにうまくいくのか」との疑問もわいてきます。

ポイント4

「例示」で説得力を増す

この疑問に対しては、「本当にうまくいっていますよ」と答えればよいわけです。つまり、具体例を出して証明すればよいのです。それが、「例示」といわれるものです。前の文章に例示を付け加えてみます。

私は、サマータイムの導入に賛成である。なぜなら、サマータイムを導入したほうが、時間を有効に使えるからだ。たとえば、サマータイムによって時間を一時間先に進めれば、日没は現在よりも一時間遅くなる。すると、日の高いうちに仕事が終わって、終業から日没までの時間を仕事以外の家族とのふれあいや地域の活動にあてることができる。実際、ニュージーランドでは、サマータイムを利用しているボランティア活動や地域活動が活発に行われている。

どうでしょうか。「私は、サマータイムの導入に賛成である。」という一文から出発して、ずいぶんと小論文らしくなってきましたね。具体例が盛り込まれて、説得力も増しています。

ポイント5

「例示」にウソは禁物

ここで、一つだけ気をつけなければならないことがあります。それは、「事実誤認」です。具体例は、それが事実であることによって価値をもつのですから、あやふやな記憶にたよって「ウソ」を書いてしまわないように注意しましょう。この「例示」の部分を書くためにも、ふだんから、社会のできごと

とに目配りしておくことが大切です。

このようにいうと、「結局、小論文って知識なのか」といわれそうです。たしかに、知識があればそれにこしたことはありません。しかし、知っている知識を羅列するだけでは、小論文になりませんね。知識をもとにして考え方を組み立てることが大切です。

ポイント6

理由は二つ以上挙げる

ここまで、「意見+理由+説明+例示」の四点セットを使つての書き方を説明してきました。では、これで十分かといえは、まだ十分ではありません。理由が一つしかないのでは、すぐに反対派に論破されてしまいます。また、読み手を説得するにも、これだけではもの足りません。そこで、第二、第三の理由を付け加えていくことが必要になってきます。

たとえば、サマータイムについて賛成する理由には、余暇時間の有効活用ほかに、省エネルギーに役立つ、防犯上の効果がある、なども挙げられます。第一の理由と同様に「意見+理由+説明+例示」の四点セットで、文章化してみましょう。

私は、サマータイムの導入に賛成である。なぜなら、サマータイムは、省エネルギーに役立つからだ。サマータイムによって時間を一時間先に進めれば、朝涼しいうちに仕事が始まり、夕方は日の高いうちに仕事が終わる。そうすれば、オフィスで冷房を入れる時間も、電灯をつける時間も短くなる。また、家庭での照明点灯時間も短くなる。政府の試算でも、同様の結果が報告されている。

私は、サマータイムの導入に賛成である。なぜなら、サマータイムには防犯上の効果があるからだ。サマータイムによって終業時刻が早まれば、明るいうちに帰宅することができ、帰宅途中にひったくりにあうなどといったことも減少するであろう。また、夕方の帰宅時の交通事故も減少するであろう。

ポイント7

段落をまとめて文章をつくる

さて、ここまで書いたら三つの理由を述べた文章を、一つの文章にまとめてみましょう。

そのためには、三つの文章の中の、重複する部分を初めにもつてくるとよいでしょう。そして、理由は、「第一に……」「第二に……」「第三に……」とするか、「まず……」「次に……」「終わりに……」として、区別をするとよいでしょう。

私は、サマータイムの導入に賛成である。

その理由は、次の三つである。

第一に、サマータイムを導入したほうが、時間を有効に使えるからだ。たとえば、サマータイムによって時間を一時間先に進めれば、日没は現在よりも一時間遅くなる。すると、日の高いうちに仕事が終わって、終業から日没までの時間を仕事以外の家族とのふれあいや地域の活動に活用することができる。実際、ニュージーランドでは、サマータイムを利用しているボランティア活動や地域活動が活発に行われている。

第二に、サマータイムは、省エネルギーに役立つからだ。サマータイムによって時間を一時間先に進めれば、朝涼しいうちに仕事が始まり、

夕方は日の高いうちに仕事が終わる。そうすれば、オフィスで冷房を入れた時間、電灯をつける時間も短くなる。また、家庭での照明点灯時間も短くなる。政府の試算でも、同様の結果が報告されている。

第三に、サマータイムには防犯上の効果があるからだ。サマータイムによって終業時刻が早まれば、明るいうちに帰宅することができ、帰宅途中にひったくりにあうなどといったことも減少するであろう。また、夕方の帰宅時の交通事故も減少するであろう。

どうでしょうか。文章としては多少ぎこちないですが、きちんと一つの意見を主張する意見文になっていますね。最初の一文から、順を追って書いてきて、約五〇〇字の意見文になりました。最初から五〇〇字の文章を書くとしても難しいものですが、このように、一つひとつの部分を組み合わせて一つの段落をつくり、さらにいくつかの段落を組み合わせていけば、まとまった形の小論文になっていきます。

「ここまで書いても、それで読み手が納得してくれるか心配だ」と思うかもしれません。しかし、小論文で問われているのは、自分の意見を理路整然と述べる能力です。賛成するかどうかにかかわらず、一理あると思わせればよいのです。ですから、このように順を追って書けば、自分の意見はどうあれ、あなたの意見はいちおう筋の通ったものとして認められるはずです。「小論文は結論よりもプロセスが大事」といわれるのは、このためです。

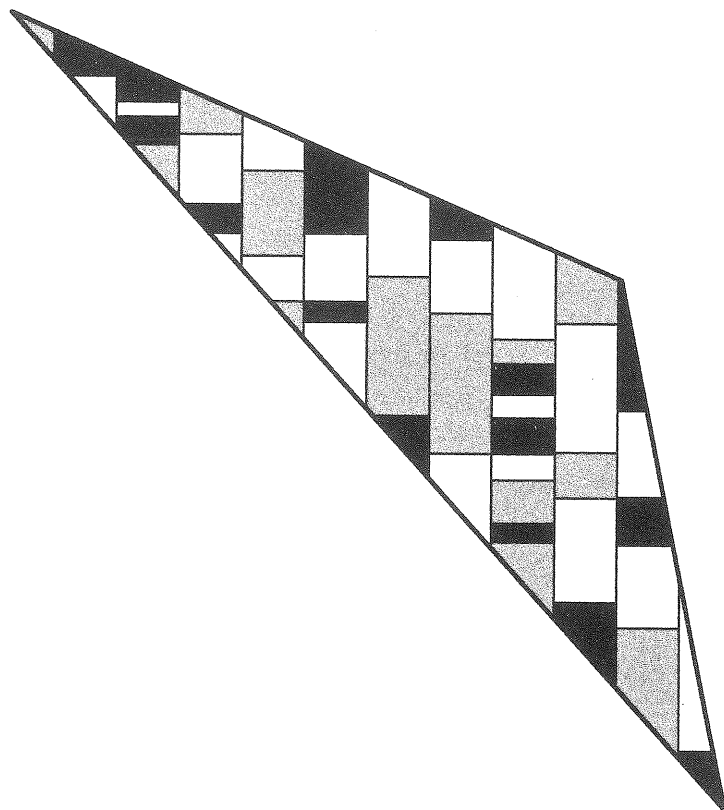
課題

家庭から出るゴミの収集を有料にすることについて、賛成か反対かを明確にして、あなたの意見を述べなさい。(四〇〇字以内)

高校ゼミ

小論文

解答例



CKT

第1部 導入編

1 課題 (p.7)

家庭から排出されるゴミの収集を有料化する¹⁰ことに、私は賛成である。なぜなら、有料化することは、環境に対する住民の意識を高めると同時に、排出されるゴミの量の削減につながると考えるからだ。ゴミを出すことが、自分たちに経済的負担となつて跳ね返ってくるならば、できるだけゴミを出さないように努めるであろう。その結果として、出されるゴミの量の減少が期待される。

たとえば、包装紙やペットボトルは、使い終わればすぐゴミになつてしまふ。しかし、ゴミ収集が有料化されれば、過剰包装を断る人や水筒をもち歩く人が増える。また、その過程で、原料である森林資源や石油資源のことを考えるようになる。つまり、ゴミが環境に与える負担についても考えるようになる。

一人ひとりの意識を高めることが、環境問題解決の要である。そのためにはゴミの収集の有料化が有効な手段であると考える。

20

10

2 課題 (p.11)

高齢者が要介護状態に至るのを予防するため、「介護予防制度」が二〇〇六年四月から実施された。これにとりなつて、これまで介護保険サービスを利用していた人が、サービスを利用できなくなるといふ事態が起きた。だが、そのようなことが一時的に起こるのはしかたがない。なぜなら、高齢者が元気に生活でき、介護保険を利用しなくてもすむようにすることは、財源の破綻を防ぐためにも重要であると考えるからである。

10

◆解答のポイント

1 課題

まずは、意見を明確に示すこと、その理由をしつかりと述べることが求められます。

段落構成は、「意見」↓「理由(なぜなら……)」↓「説明」

↓「例示(たとえば……)」

↓「まとめの意見」という形でまとめます。

内容的には、①市民の環境に対する意識の向上、②ゴミの量の削減、という二つの観点から考察しています。

なお、家庭ゴミの有料化については、税を払うのとは別に有料化するのは、住民に二重の負担を強いるものであるという批判もあります。

2 課題

一文を短く切る、話し言葉を書き言葉に改める、事実と意見を書き分けるといった点に留意しつつ作業を進めます。「高齢」の「齢」は俗に「令」とも書きますが、「齢」と書くのが正しい書き方です。「保険」と「保健」は意味の違う言葉です。

数字は漢数字で書きます。